

オシン・タアイ宣言

気候変動に関する太平洋教会宣言

気候変動に関する太平洋教会会議からの声明と勧告

オシン・タアイとは：キリバス語で日の出のこと。それは希望の象徴であり、日の光をもたらす日の出。

2004年3月6日～11日
キリバス共和国、タラワにて開催

すべての島々よ、立ち上がって歌い、
私たちの神をたたえよう
弦や太鼓で神の力をあらわし、
神のみ名がもつ栄光を叫ぼう。

太平洋よ、太平洋 その震える珊瑚礁の岸边とともに、
魚や貝や力強い鯨に、そして神の賜物すべてに感謝をささげます。

～ P C C 讚美歌より～

概観

ここキリバスの小さな島の環礁では、人間が引き起こした気候変動の影響がすでに目に見えています。海面は上昇し、人々の家は高潮や嵐の増大による被害を受けやすくなっています。海岸は浸食され、珊瑚礁は白化しています。水の供給や土の地力は、しみ込んでくる塩水によっておびやかされています。天気のパターンはこれまで以上に予測できなくなり、漁民や農家を危うくしているのです。

窮状のうちにあるのはキリバスだけではありません。太平洋にある他の多くの島国が、同じように人間が引き起こした気候変動の影響を体験しています。およそ700万人を数える私たち太平洋の諸民族は、すでに苦しみを受けており、そして将来にいたってはさらに多くの影響による被害を受けやすくなるのです。

気候変動に関する太平洋教会会議に参加した私たちは、次のことをするよう神に招かれていると考えます。すなわち、

- 地球を大切にするという私たちの責務を確認し、それによって被造世界に対する神の愛に応えること。
- 人間がもたらした気候変動の脅威が、太平洋の島嶼諸国の暮らしや福祉、社会、文化、そして生態系に対して緊急なものとなっていることを、できるかぎり力強く宣言すること。
- 気候変動に関する教育や行動に私たちの教会が関わるよう、自らをささげること。
- 太平洋およびそれを越えたところにある教会同士や他宗教および世俗の団体とのエキシメニカルな協力について責務を負い、それによって国および地域の取り組みがもたらす効果を増大させること。
- 私たちと連帯して行動するよう、キリストにある世界中の姉妹兄弟たちに呼びかけ、人間が引き起こしている気候変動の原因を減らすこと。私たちはこの呼びかけを、とりわけ高度に工業化された国々の教会に対して発します。それらの国々の社会は、汚染を引き起こす排出の大半について歴史的な責任があるからです。私たちはさらに、これらの国々に対し、自らが引き起こしてきた生態系への被害について責任をとり、そのために、予想され得る影響に対する適応策にかかる費用を支払うよう、強く求めます。
- 緊急支援・開発・提言を専門とする教会関係の奉仕団体に対し、気候変動とそれに対する適応策のための事業を、自らの方策の開発や教育、提言にとり入れること。
- 気候変動の問題に関して、太平洋の諸教会を支援している世界教会協議会に感謝の意を表しつつ、太平洋の声を WCC 気候変動プログラムと 2006 年の WCC 次期総会にもっと反映させるよう求めること。
- すべての国々、とりわけ今日にいたるまでまだ京都議定書*を批准していないアメリカ合衆国やオーストラリア、ロシア連邦といった高度に工業化された国々に対し、議定書を批准し実施するよう、圧力をかけること。
- 化石燃料の主要な生産者ないし消費者である会社に対し、二酸化炭素の集約度がより低い経済への移行や、エネルギー利用の削減、そしてよりきれいで再生可能なエネルギー源の開発を支持するよう、うながすこと。

* 京都議定書は、1997年に日本の京都で国連の諸国を通じてその交渉が行われました。この議定書は、気候変動へとつながる温室効果ガスの排出量を削減するための実質的な目標値と一定の時間枠を、先進工業諸国(この議定書では附属書 I 国と呼ばれています)に対して定めています。この議定書には、高度に工業化された(附属書 I)国が発展途上国で持続可能な事業に資金を提供することで目標値の一部を達成できるような条項(例えばクリーン開発メカニズム)が含まれています。京都議定書はまだ発効していません。それが国際法になるためには、少なくとも 55 カ国がそれを議会や立法機関で採択することによってそれを批准しなければなりません。これまで 100 カ国以上が批准しましたが、この議定書は、先進工業諸国における温室効果ガスの総排出量のうち、少な

くとも55%をなしている、高度に工業化がすすんだ(附属書I)諸国によっても批准されなければなりません。オーストラリアと米国は、主要な排出国であるにもかかわらず、議定書を批准しないと発表しています。これによって、残るはロシアだけが、議定書における55%の基準を満たし、したがってそれを発効させるのに十分な排出量をもつ、高度に工業化された唯一の(附属書I)国となっているのです。ロシアは今もなお、批准をするべきかどうか、慎重に審議しています。

私たちの顔ぶれ

この会議には45人から50人が参加し、そのうちのほとんどは太平洋島嶼諸国(キリバス、ナウル、仏領ポリネシア、ニウエ、マーシャル諸島、ソロモン諸島、フィジー、ツバル、バヌアツ、トンガ、サモア、米領サモア、ニューカレドニア、パプアニューギニア、クック諸島)の出身でした。この地域の外(アルゼンチン、オーストラリア、カナダ、ドイツ、インド、日本、ノルウェー、米国)からは10人の参加者が来ました。数名の協力者がキリバスやその他の南太平洋諸国から出席しました。太平洋やその他の国々からの訪問者の中に含まれていたのは、牧師や青年活動家、教会の代表者、キリバス・プロテスタント教会の会員、そして太平洋教会協議会(PCC)と世界教会協議会(WCC)の職員の人たちでした。

私たちの文脈

この会議が、ここ太平洋における社会と生態系の正義のためのエキュメニカルな関心をもつ重要な歴史の上に建つものであることを、私たちは意識しています。長期的な影響をもたらしている核実験は、その重要な例の一つです。もっと最近では(2001年8月)、太平洋地域は経済のグローバル化に関するWCCの世界会議のホスト役を務め、そこには29カ国から教会やエキュメニカル団体、市民団体の代表者が集まりました。「希望の島 - 経済のグローバル化に対する太平洋の代替策」と題するこの会議では、「霊性、家族の生活、伝統的な経済、文化的価値、お互いへの思いやりと尊敬は、『希望の島』という概念をなす構成要素であり、それはモノの生産よりも、関係性を優先し、生活の質をたたえ、人間と被造物を大切にすることが確認されました。今行われているこの気候変動会議は、人間共同体と被造物をおびやかす力に挑み、正義と愛という代替的なアプローチを形に表すという、太平洋の諸教会が負う責務の延長線上にあるものとみなすことができます。

特に気候変動に関しては、この会議で私たちがその文脈としているのは、非常に深刻な影響を受ける地域です。太平洋地域の温度は、今世紀中に摂氏0.6度から3.5度上昇する可能性があるると予測されています。これは、前世紀の間に観測された変化よりもずっと程度の大い温度の上昇であり、また少なくとも過去

10,000年の間には前例のないものである可能性が非常に高いのです。太平洋諸国の人々にとって、これらの温度の上昇がもたらす最も重大な悪影響は、おそらく、熱によって海洋が膨張したり、万年雪がとけたり、そして降水量が増大することから起こる海面上昇でしょう。地球温暖化の結果、向こう100年間の間に、海面は年間5ミリ上昇するだろうと予測されています。

人間が引き起こす気候変動は、幅広い範囲で、太平洋諸島の人たちに次のような悪影響をもたらすでしょう。すなわち、

- 沿岸の陸地や社会基盤が、浸食や洪水、嵐の高まりによって失われること。
- サイクロンの頻度や猛烈さが増大し、人間の生活や健康、家や共同体が危険にさらされること。
- 珊瑚礁が失われ、島の人たちの多くの生活がかかっている海洋生態系に影響が出る可能性があること。
- 降雨のパターンが変化し、一部の地域で干ばつが増大するとともに、他の地域では雨がもっと降って洪水が起きること。
- 降雨の変化や海面上昇、洪水によって、飲料水がおびやかされること。
- 極端な温度や降雨の変化によって、さとうきびやヤムイモ、タロイモ、キャッサバが失われること。
- デング熱や下痢の発生率が増大して、人間の健康に影響が出ること。

私たちの信仰

創世記の創造物語からその先に至るまでの聖書全体を通して、私たちは地球と人類を含むその生き物に対する神の愛について知らされています。被造世界全体の健全性や相互連関性についての聖書的な理解には、ヴァヌア／フォヌア／ホエヌア／エヌアとして知られる土地や、モアナと呼ばれる海洋についての太平洋の伝統的な教えと一部似たところがあります。この幻が意味するところは、私たち人間には、神のつくられたものに畏敬の念と謙遜さをもって生きる必要があるということです。被造世界に対する神の愛に応えて、私たちは地球を大切にし、気候変動を助長するような破壊的な活動を制限するよう招かれています。

よき管理人ないし看守であることは、人々と地球との間の互恵的な関係へとつながります。私たちは地球に依存しているのであり、それを大切にしなければなりません。もし私たちがそうするのならば、土地も海洋もすべてを満たすだけの豊かなものを生み出すでしょう。逆に、もし人間社会が地球に害をもたらすのであれば、人々は苦しむのです。

大地に二度と洪水を起こさないと神がノアに約束したことについて、私たちは一言述べて

おきたいと思います。一部のキリスト者は、この契約を、自分たちが気候変動による洪水の危険にさらされないことを保証するものとみなしています。けれども、海面は現に上昇しているであり、太平洋の島々を高潮や嵐の高まりによる洪水でおびやかしています。これは神がなさっていることではありません。それは人間の経済活動や消費者としての活動がもたらしている結果であり、それが大気を汚し、気候変動へとつながっているのです。汚染をもたらしているこれらの排出物のほとんどは、高度に工業化された国々から来ているのです。ノアに対する神の契約への私たちの応答は、神のつくられた世界への愛のうちに行動し、気候変動を助長している汚染を減らすことです。私たちを地上におかれたことによって、神は私たちに、それをを用いる権利とともに、心づかいをもって用いる責任をもお与えになったのです。

私たちがともにしたこととは

キリバス・プロテスタント教会(KPC)は、この会議のホスト役を務めてくれました。KPCの指導者たちや会員たちは、途方もないほど寛大にもてなし、準備のために働いてくれました。参加者のほとんどは、地域の家庭で接待を受けました。KPCは数え切れないほど多くのごちそうの会や文化の夕べを主催するとともに、この国際会議のために詳細の計画や実行を助けてくれました。私たちは大変感謝するとともに、彼らの恩恵を受けています。

私たちは、気候変動に関する太平洋教会会議の直前にキリバスで行われた青年会議から多大な恩恵を受けました。23人の若者たちが、4日間集まって、礼拝や歌、気候変動に関する学びや、太平洋の青年たちと教会の両方に向けたエキュメニカルな行動のための方策についての勧告事項の起草をしました。太平洋教会会議が3月6日に始まった時に、青年たちは気候変動の問題に関する自らの情熱と専門知識を、より大きいほうの会議へともたしてくれました。

この会議に参加した代表者たちは、3月5日(金)にキリバスに到着し、バイリキという村で世界祈禱日の礼拝に参加して、すぐに私たちのホストであったキリバス・プロテスタント教会の礼拝と文化のゆたかな生活にひたりました。村のごちそうの会や文化の夕べがこの礼拝に引き続いて行われました。土曜日には、キリバスで海面上昇や高潮、嵐の高まりによって引き起こされた海岸浸食を示す明らかな証拠がみられるところへと案内してもらい、そこを訪ねました。キリバス・プロテスタント教会の主催による歓迎の夕食会が日曜日の夜に開かれ、キリバスの人たちの寛大さがさらに示されるものとなりました。参加者は、さまざまな村で日曜日の礼拝に出席しました。会議のプログラムにある会合は、3月8日(月)から10日(水)まで行われ、その内容は、朝の祈りや聖書研究、キリバスの環境大臣(マーティン・プタ・トフィガ大臣)との対話、WCC気候変動プログラムについての紹介(デービッド・ホールマンとナフィサ・デソウザが担当)、産油国と気候変動の影響を受けている国々との相互関係についての基調講演(ノルウェー・チャーチ・エイドのアトレ・ゾンマーフェルト)、そして南太平洋地域環境プログラム(SPREP、アンドレ・ヴォレントラス)と世界

自然保護基金（WWF、アメリカ・マクトゥ）による、太平洋地域における気候変動に関する発題といったものでした。全体会合や分団討論は、プログラムの中に終始散りばめられていました。

会議は、全体討論や分団討論から出てきた声明の草案文と勧告事項に関する慎重な討論をもってヤマ場を迎えました。

勧告事項

太平洋の諸教会へ

1. 気候変動問題に関する会衆への教育のためのお金を年間予算に含めるよう、自国の教会にうながすこと。承認
2. 気候変動に対する啓発活動において、青年の会員が先頭に立って用いられるようにすること。
3. 情報の共有において、教会はエキュメニカルな協力者とともに活動すること。承認
4. 地域の教会が自ら研究集会を推進し、気候変動に関する会議のまとめ役を全国的ないし地域的なエキュメニカル組織が担うのを待つことのないよう、うながすこと。承認
5. 教会指導者は、創造物語やその他それに関連した聖句に焦点を当てた聖書研究や説教を通じて、気候変動に関する教会の活動を率先して行うこと。承認
6. 政府やエキュメニカルな協力者とともにパートナーシップを組んで活動し、気候変動を必ず学校や神学研究機関の履修課程の一部とするような政策を実施すること。承認
7. 2005年までに、キリスト教教育の履修課程に気候変動問題を含めること。承認
8. 特に気候変動に関連のある祈禱日を促進すること。承認
9. 気候変動の問題に取り組むための委員会を各教会につくり、物語や地域の環境に起きている具体的な変化の事例を通じて、その影響について会衆を教育するとともに、反応を受け取ること。承認
10. 神学校で創造の神学やそれが気候変動や太平洋の人々の生活とどのような関わりがあるのかを強調すること。承認
11. 既存の教会や教育機関を活用して、気候変動に関する意識の向上を図ること。例えば、教会の委員会や、女性・男性の会、青年会、日曜学校、父母と先生の会（PTA）など。承認
12. 気候変動に関する資料やそれに関する聖書の教えを自国の言葉で学べるようにすること。承認
13. 教会（牧師）はエコロジー神学を身につけ、神と自然、そして人々との関係を十分に理解すること。承認
14. 被造世界や気候変動に関連のある聖句を聖書日課に含めること。承認
15. 自分たち自身の信仰共同体の中から調整役を指名し、地域の教会とともに活動すると

もに、他の関心のある人たちと意思疎通を図ることによって、この勧告事項の実施を観察しそれに同伴すること。承認

16. マスコミを使って、気候変動問題に関する情報を広く行き渡らせること。承認
17. 既存の資料や資源、組織を積極的に利用すること（WCC、WWF、SPREP など）。承認

太平洋教会協議会（PCC）へ

1. 太平洋の諸教会に対して、この地域や世界的な組織から、気候変動に関する情報を増やし、改善し、更新し、行き渡らせること。承認
2. 各個教会の活動の調整を認識するとともに、マスメディアや、例えばTシャツや帽子などの奨励用品を通じて気候変動に関する活動を推進すること。承認
3. 会議や研究集会を通じて、気候変動に関する祈りや考察に焦点を当てた神学的な資料をつくり、提供し、わかちあうこと。承認
4. ある特定の日曜日を、「太平洋の気候変動をおぼえる主日」として定めること。承認
5. 気候変動に関する対話と行動に、他宗教の団体にも加わってもらうこと（例えば、フィジーにおける宗教間活動）。承認
6. 気候変動の問題を、PCC 常議員会や 2007 年の PCC 総会の議題における優先課題とすること。承認

世界教会協議会と WCC の加盟教会へ

1. 気候変動とたたかう太平洋諸島を支援しつづけること。承認
2. 太平洋地域からの代表を少なくとも 1 人、WCC 気候変動作業グループに含めること。承認
3. この会議の宣言文や報告書、青年たちの声明、行動計画、そして背景資料を出版すること。承認
4. 会議の資料を翻訳して、それを各教会へ送ること。承認
5. 太平洋の各教会におけるこの会議の勧告事項の実施状況を見守りともに歩むこと。承認
6. この宣言文を世界の WCC 気候変動ネットワークや WCC 加盟教会に行き渡らせること。承認
7. WCC 総会（2006 年ブラジルのポルト・アレグレ）において、各地域の分かち合いのために割り当てられる時間のほかにも、太平洋の諸教会の代表者たちが気候変動に関する自分たちの関心を分かち合う場を提供すること。承認
8. WCC 気候変動作業グループを強化して、太平洋地域の諸教会とともに、そして国際的なレベルで活動を続けること。承認
9. これに続く気候変動に関する会議の開催を推進すること。承認
10. 太平洋の諸教会が気候変動に関する活動のための資金的な援助を得ることができるよう支援すること。承認

11. 障害や解決策など、気候変動に関する最新情報を提供すること 承認
12. この会議の参加者が、これに続く会合や太平洋における気候変動に関する催し物に参加し、この問題について培った理解を分かち合うこと。 承認
13. OPEC（石油輸出国機構）諸国との対話を追求し続けることによって、気候変動を引き起こす化石燃料の利用の削減を支持するとともに、WCCの宗教間作業グループからの支援をとりつけること。 承認
14. 2005年から毎年、石油会社1社の年次株主総会に、気候変動の影響を受けている太平洋諸国からの代表者が出席するのを助けること。 承認
15. WCC太平洋事務局が2004年に南太平洋地域環境プログラム（SPREP）とともに「自然保護に関する太平洋諸島地域円卓会議」を共催することに留意すること。この協力関係の上に立って、WCC太平洋事務局とSPREPは、気候変動や、2005年～2009年SPREP行動計画の下で確認された関連するテーマの諸問題に関する、社会の意識向上と教材の開発のために、緊密な活動を行う。
16. WCCは、太平洋の若い人たちが気候変動の影響に関する特別な発表の場を2006年のWCC総会のプログラムの中でもつことができるよう、助けること。

緊急支援・開発・提言を専門とする、各教派の、およびエキュメニカルな奉仕団体へ（北側諸国と南側諸国の両方）

1. 気候変動を優先課題とするとともに、教会や教会を基盤とする組織が気候変動に関する活動（例えば、意識の向上、適応プログラム、緊急援助、提言活動）をするための資料を提供すること。 承認
2. 気候変動によって深刻な影響を受けている国々の適応プログラムへの支援に関する包括的な方策を考案すること。これには、次のものが含まれなければなりません。
 - 緊急支援教会共同行動委員会（ACT）の文脈の範囲内で、地方・全国・国際地域・地球規模のレベルにおける緊急支援の準備に関する方策。
 - 教会および教会を基盤とした組織がもつ次の能力を増強するためのプログラムを考案すること。
 - 意識の向上
 - 市民社会や政府、および民間企業セクターで、関連のある他の行為主体とのネットワーク作り
 - 地域社会におけるプロジェクトの実施
 - 適応措置の一部となるようなプログラムの長期的な開発を優先課題とすること。それには、もし必要であれば、例えば次のようなものへと優先順位を変えることが含まれる。

- 緊急事態予防プロジェクト
- すべての開発プログラムにおける代替エネルギー
- 水に関するプログラム
- 復興事業 承認

3. 適応プログラムのための資金を増額するよう、特に OECD（経済開発協力機構）諸国に提言すること。 承認

4. 各教派の神学機関や神学校で気候変動を教育課程に含めるよう、教育機関にうながすこと。 承認

5. 気候変動がもたらす壊滅的な影響が太平洋では現実のものとなっているということ、そして影響を受けている人たちを支援するには、人とお金の両方が必要だということについての認識をうながすこと。 承認

6. 太平洋島嶼諸国における被災者救援を支援すること。 承認

太平洋諸国の各政府へ

1. 太平洋島嶼諸国が生き残るための闘いと情熱を持ちつづけること。 承認
2. 先を見越して行動するとともに、気候変動に関する、実現可能かつ持続可能な行動計画を実施すること。 承認
3. 政府とともに気候変動の問題に立ち向かうよう、NGO や教会にうながすこと。 承認
4. 社会教育活動やマスメディア、世界環境デーのように毎年行われる国際的な行事を通じて、政府のすべての省庁における横断的な問題として、気候変動とその変わりやすさに関する意識をうながすこと。 承認
5. 天然資源（砂、砂利、森林など）の乱用を最小限に食い止めるための立法措置をとること。 承認
6. マスメディアを使い、教会と協力して活動することによって、気候変動に関する新しい情報を提供すること。 承認
7. 教育や意識向上プログラムに関する政府の事業を、太平洋の諸教会にまで拡げること。 承認
8. 気候変動に関する法律の制定において、政治的なリーダーシップを強化すること。 承認
9. 政府の行動計画や気候変動に関する状況についての正確な情報をそれぞれの国で提供すること（透明性の問題）。 承認
10. 国際レベルでの交渉に関する最大限の準備を確実にすること。 承認

11. 京都議定書の実施に向けて活動すること。 承認
12. 適応措置のための予算を増額して提供すること。 承認
13. 気候変動の影響を制限することや、太平洋島嶼諸国の脆弱性を減らすためにすぐ使える技術についての調査研究を支援すること。 承認
14. 国家の開発計画や政策・戦略における最優先課題として、気候変動に取り組むこと。 承認
15. 教育や訓練に投資し、それによって気候変動に関する国家の問題に十分に取り組むのに必要な能力を開発すること。 承認

高度に工業化された国々（京都議定書における附属書I諸国）の各政府へ

1. 気候変動の影響に対する自らの特別な責任を認め、速やかに行動すること。なぜなら、太平洋の人々は、まさにいま苦しみ、泣き、そして死んでいるからです。 承認
2. 化石燃料の生産と消費を減らし、再生可能エネルギーの利用を増やすこと。 承認
3. 気候変動の問題に関する高等教育での研究のために、太平洋の学生たちに奨学金を提供すること。 承認
4. 京都議定書を批准し、実施すること。 承認
5. 太平洋における適応プログラムのための予算を増額すること。 承認
6. 京都議定書に定められた削減目標を、第一約束期間のうちに実施すること。 承認
7. 太平洋諸国の要請に基づき、気候変動の被害者が移住するのを助け、補償をすること。 承認

化石燃料を生産ないし消費している主要な会社へ

1. 私たちは、これらの会社が自らの態度や方針を改めるとともに、彼らが気候変動の影響に対する責任を共有していることを認め、太平洋における適応プログラムのため、国際連合気候変動枠組み条約（UNFCCC）気候変動特別基金に貢献するよう、要求する。 承認
2. 会社の科学者や政府機関は、太平洋を訪れて、影響を受けている国々の人たちと会うことによって、気候変動の影響をじかに目で確かめること。 承認
3. 行動計画の優先課題として、再生可能エネルギーに焦点を当てた活動に向けた新たな方向付けを行うこと。 承認
4. 気候変動に取り組む株主運動や要請行動を支援すること。 承認
5. これらの会社の意思決定機関のメンバーは、気候変動に取り組む教会の神学的な観点を考慮に入れて、自らの会社が神の被造世界に対して何をしているのかを認識すべきです。 承認

（日本語訳：行本尚史）